



さようなら、そしておかえりな祭さい

東白川小学校開校以来18年間、児童たちが世話をしつづけたクジャクが2月10日、老衰でこの世を去りました。

このクジャクは安江喜好さん（黒淵）が開校を記念につがいのひなをプレゼントしたもので、3年生が飼育を担当し、大切に育ててきました。雌はいつの日か亡くなり、雄だけとなりましたが3年生は夏休みも冬休みも欠かすことなくエサを与え、小屋の掃除などの世話をしてきました。

悲しみに沈んだ子どもたちの「クジャクを何とか残したい」という願いから、はく製にすることが検討され、PTAの募金協力で業者に依頼されました。そして、3月2日に「くじゃくさんおかえりな祭」が3年生によって行われ、全校児童によみがえったクジャクが披露されました。この日、招かれた安江さんは「かわいがってくれてありがとうございます」とあいさつ。子どもたちはこのクジャクの死で命の尊さを学びました。

広報 ひがししらかわ

1998 平成10年 3 No.441

人口の動き	
2月末住民登録人口から	
世帯数	901世帯
人口	3,263人
転入	2人
転出	8人
出生	1人
死亡	6人
先月と比較して11人減	
昨年同月と比較して27人減	



笑顔の 似合う村



現代では、いじめ、体罰など子どもをめぐる問題をはじめ、部落差別など人権問題が取り沙汰されている中、村は今年度、人権モデル地区として、住民の皆さんに認識していただくために様々な活動を展開してきました。

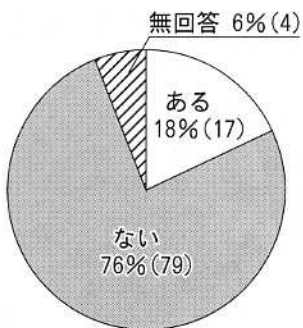
また、学校、家庭、地域が一体となって、豊かな心を持ち主体性のある子どもを育てるために、平成八年度、九年度の二か年で個性化教育実践推進事業を進めてきました。

この二つの事業は、笑顔の絶えないいきいきとした村づくりをするためには欠かせない事業です。

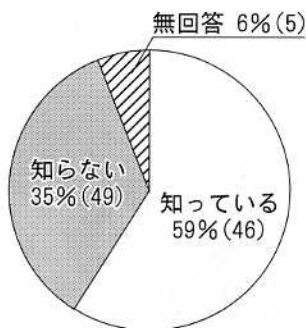
今回、事業を振り返り、事業の結果のアンケート調査も実施しました。



嫌な思いをさせられた
ことはありますか



村の人権擁護委員
を知っていますか？



人権モデル地区 アンケート調査の結果

村では昨年四月村内全戸を対象に人権のアンケート調査を実施しました。そして、一年間モデル地区として様々な啓発活動を行い、その成果として今年二月にもう一度、同調査を実施し、二十歳以上の男女五八三人から回答をいただきました。調査の結果は次のとおりです。

() は前回の調査

人権モデル地区

として

村は、美濃加茂人権擁護委員協議会及び岐阜県地方事務局美濃加茂支局から人権モデル地区の指定を受け、五月十九日に村長を会長に三十一人が委員となり、東白川村人権モデル地区推進協議会を発足しました。

活動は、村民みんなの目に触れるよう、主要道路沿いや施設付近など村内五か所に「人権モデルのむらひがしらかわ」と書かれた看板の設置から始まりました。

六月十五日には、「咲かせようみんなの笑顔」をキャッチフレーズに東白川小学校と保育園で人権花運動が行われ、児童や園児、そして保護者の手によってマリーゴールドやサルビアなど三種類の花がプランターに植えられました。この花運動には「子どもたちの心も花のように美しく」と願いも込められていました。中学校では、人権にかかわる絵画や書道、作文の授業が行われ、その作品は、こもれびの里を会場に行われた秋フェスタにて展示されました。

絵画には、手を取り合った作品など「差別やいじめを無くしたい」という生徒たちの優しい心



東白川小学校で行なわれた人権花運動

が描かれたものが多く、また、作文には、いつしか自分たちの心に宿ってしまった障害者に対する偏見、民族や部落差別の反省などが書かれていました。そして、十一月十九日には中学生を対象に人権啓発劇団「なずなの会」の紅谷与一氏の特別公演「人権ひとり語り」と映画「くもりのち晴れ」がはなのき会館で上映されました。

公演は、明治時代に入って身分制度が廃止されたものの相変わらず部落差別が続いた様子を紅谷さんが言葉で演じました。そのあと行われた映画は、いじめによって言葉を失った少女の話を書きかけに、クラス全員が成長した実録をアニメ化したものです。いじめも差別やいじめをする側の卑劣さと、された側の悲惨さが伺えるものでした。また、十二月四日にも東白川小学校で映画会が開催され、低学年には「おーい！ 竜馬」が、高学年には「はばた

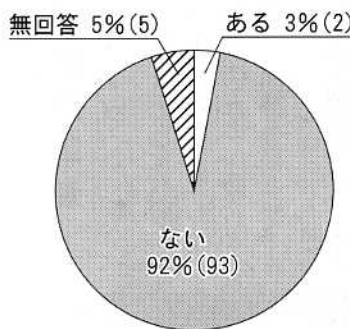
け、明日への瞳」が上映されました。村はこうしたイベント的な啓蒙活動のほか、役場別館や集落の集会所を会場に例年に増して人権相談所を開設し法務大臣から委嘱された人権擁護委員の中島葵一さん（西洞）や法務局人権担当者が、様々な悩みやトラブルに巻き込まれた皆さんの相談に応じてきました。そのほか、チラシやポケットティッシュの配布、また、「広報ひがししらかわ」でも何度か人権に関する話題を取り上げてきました。

「いじめ」や「差別」の無い、みんなが幸せで明るい村づくりを目指して行ってきたこの活動。「人権モデル地区」としての事業は三月で終了しますが、啓蒙活動は今後も継続していきます。この一年で皆さんの心に「人権」の二文字が焼き付き、村民みんなが一層思いやりのある優しい心になったことを信じています。

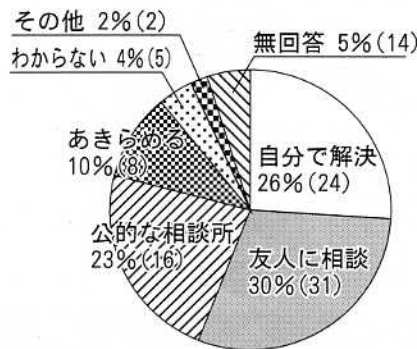


人権啓発劇団「なずなの会」の紅谷与一さんによる人権ひとり語り

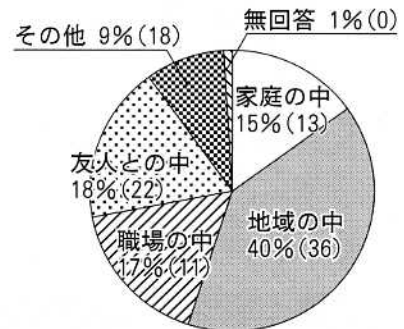
人権擁護委員に相談されたことはありますか



嫌な思いや困ったときどうしますか



嫌な思いをされたのはどんなことですか





主体的に生きる子どもの育成



子どもの意欲を高めよう

豊かな心を持ち、主体性のある子どもたちを育てるために、学校、家庭、地域が一体となって進めてきた個性化教育実践推進事業。この事業は、保育園、小学校、中学校、それぞれがテーマを掲げ、一人ひとりの個性、能力、適性を伸ばしながら主体性を発揮することのできる子どもを育てることを目的に行ったものです。

事業を行うにあたって「自ら進んで行動できる子ども」「互いのよさを感じられる子ども」「地域に積極的に働きかける子ども」と三つの育成方針を打ち立て、三位一体となって事業に取り組みました。

保育園・学校では

- ・子どもの意欲を重視します。
- ・一人ひとりの個性をいかします。
- ・選択決定する場面を多く持ちます。
- ・体験活動を重視します。

■保育園 生き生きと遊ぶ子

- (1) 散歩など園外保育に加え、川遊びや雪遊びなど自然の中で、のびのびとした保育。
- (2) ごっこ遊び、伝承遊び、表現遊びなどで、仲間といふことの喜びや楽しさを感じられる体験を大切にしたい保育。

生活意識調査

今回、東白川中学校保護者と生徒を対象に人権と個性化教育に係るアンケート調査を実施しました。

その結果六〇人の保護者と一〇一人の生徒から回答をいただきました。

自分の子どもが二年前と比較して成長したと思いますか。

思う	43
思わない	1
わからない	12
回答なし	4

子どもの人生において一番大切と思われることは

勇気	6
善悪	38
やさしさ	18
協調性	4
正直	4
その他	3
回答なし	4

子どもと命の尊さについて話あったことはありますか。

ある	40
ない	20

見習って欲しい大人の姿

- ・人情味がある・自然を愛する心
- ・一生懸命働く・伝統を大切に
- ・地域での協調性・他人を思いやる心
- ・素直さ・etc.

見習って欲しくない大人の姿

- ・イイグサを言う・子どもにあいさつをしない
- ・他人を干渉する
- ・出る釘を打つ
- ・自分さえ良ければいい
- ・積極性がない
- ・交通規則を守らない
- ・タバコやゴミを捨てる

保 護 者



木の葉のカンムリをつくる園児たち（神土保育園）

■小学校 自ら学ぶ姿勢づくり
 (1)一人ひとりに考える場を与え、友だちと意見が交わされる授業。
 (2)茶摘みや米づくりなどの体験から地域の産業を知り、作ることに大変さや喜びを味わう。
 (3)通学などでは、地域の人たちと元気で気持ちの良いあいさつを交わす「あいさつ十ひと声」運動を進めています。
 ■中学校 豊かな心と主体性を育てる
 (1)生徒一人ひとりに寄り添い、共に考え、感じたことを素直に語らせる授業。
 (2)体験学習から様々なことを学ぶ。
 一年生：林業体験などを通して自然や郷土を愛する心を育てます。
 二年生：職場体験から勤労の尊さ、厳しさを学びます。
 三年生：海外研修を通して国際感覚を育て、触れ合いを大切にします。

(3)文化祭や合唱フェスティバルなどの行事の中から、判断力、思考力を養うほか、感情豊かな表現力を身に付ける。

家庭では

家族の絆を 深めよう

・基本的な生活習慣の確立を目指します。

・働く体験を重視します。

・「あいさつ」の推進を図ります。

・モニターの活動を推進します。

(1)家族での会話を大切に、意思の疎通を図ります。

(2)農作業などを通して家族や自然とのふれあいを深めます。

(3)様々な行事に家族で参加し、楽しみます。

地域では

地域の子どもと 親しくなろう

・「あいさつ十ひと声」運動を推進します。

・子どもの名前を知り、親しくなる活動を進めます。

・子どもの参画のある行事を工夫します。

・地域モニターの活動を推進します。

(1)川掃除や左義長など地域の行事に参加し、ふれあいを大切にします。

(2)歌舞伎などに参加し、伝統を知り継



東白川郷土歌舞伎公演で
見事な演技を披露する子どもたち

承します。
 (3)ふれあい体験合宿など集団生活を通して、周囲の人たちへの思いやり、手伝いや奉仕活動を身に付けます。

テレビや新聞などのマスコミでは、凶悪犯罪の多発や低年齢化、少子化に伴う高齢化社会、金融機関の破綻、政治家や行政職員の汚職など様々な社会問題が取り沙汰されています。

これは情報社会の発展や企業の競争などによる急速な時代の流れと学歴社会が人々を孤立化し、自分本位の考え方しかできない人々に変えてしまったせいではないでしょうか。

本来人間は集団生活の中で、ルールを作り、助け合いながら生きていく動物です。

今回の二つの事業は、失いつつある人々の優しい心や助け合いの気持ちを再確認するために行ったもので、今後もしも引き続き活動は続け、いつまでも生き生きとした「笑顔の似合う村づくり」を進めていきたいと考えています。

悩みは誰に相談しますか。

父親 3<複数回答>

母親	14
友だち	46
先生	6
自分で解決	60
その他	5
回答なし	3

自分から何でも進んでできますか。

できる	23
普通	60
できない	17
回答なし	1

友人から学んだことはありますか。

ある	37
ない	14
わからない	49
回答なし	1

二年前と比べて

成長したと思うことは

・他人を思う心・話をまじめに聞ける・コツコツできる・明るくなった
 ・考えて行動できる・自分の意見が持てる・自分の力でできる・積極性がでた・悪口をいわなくなった・自分に厳しくなった・我慢強くなった
 ・あいさつができる・集中力がついた・責任感が強くなった・判断力がついた・発言できる・差別をしない
 地域の大人でいやだと思うこと
 ・自然を破壊する・あいさつしてもしてくれない・外見だけで判断する
 ・悪口を言う・ゴミやタバコを平気で捨てる・うわさ話をする・子どもを話聞かない・自分の事を棚にあげる・車からじろじろ見る・飲酒運転をする・他人に厳しく自分に甘い・タバコを吸いながら運転する

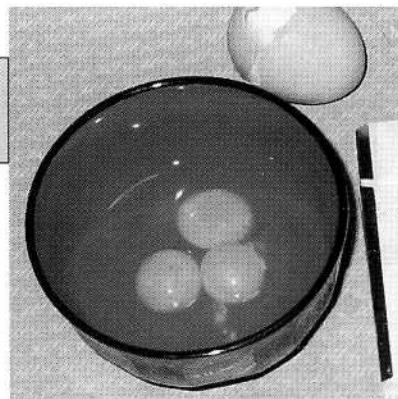
元気村の『出来事情報』



美しいハーモニーを聞かせてくれたビリーバンバン

美しいハーモニーを聞かせてくれたビリーバンバン。美しいハーモニーを聞かせてくれたビリーバンバン。美しいハーモニーを聞かせてくれたビリーバンバン。

持されて音楽活動を続けているビリーバンバンのコンサートが、三月一日はなのき会館で行われ、二人のハーモニーが館内に響き渡りました。「生の演奏を聞いて欲しい」と開催されたこのコンサート。歌はもちろんのことデビュー当時の裏話などを交えながらの二時間のステージとなりました。詰め掛けた約二百人のフォークソングファンの皆さんは、二人が熱唱する「白いブランコ」や「さよならをするために」など

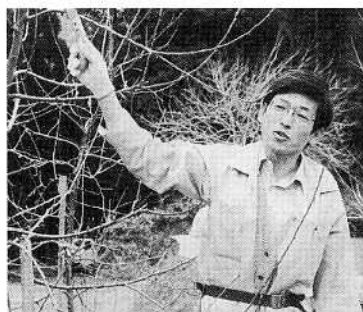


何と三つ子//
ニワトリも排卵誘発剤を?

観客を魅了! ビリーバンバンコンサート

音楽

ギターをつま弾きながら兄弟の美しいデュエット。四十代の皆さんを中心に幅広いファン層に支

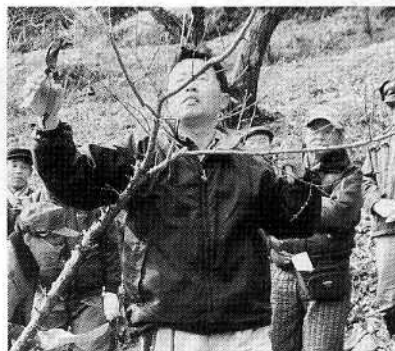


リンゴの剪定を説明する高木専門技術員。リンゴの剪定を説明する高木専門技術員。リンゴの剪定を説明する高木専門技術員。

村は以前まで養蚕業が盛んでした。しかし、現在ではそれも低迷し、養蚕農家などではかつての桑園や生産性の低い農地の有効利用として梅やリンゴの栽培に取り組まれる農家も増え、組合も組織されました。そんな中、二月四日に梅の剪定講習会が中通の今井正男さんのほ場で行われ、参加した四十人の皆さんは、講師に招いた可茂農業改良普及センター足立昌俊普及員の指導を仰ぎました。また、二月二十四日には、岐阜県農業総合研究センターの高木晃専門技術員によるリンゴの剪定講習会が神付の安江啓次さんのほ場と日向の安江久治さんのほ場で行われ、二十人の参加者たちは、熱心な指導に耳を傾けました。今後、組合では、生産者を募り、出荷体制も充実していくよう検討しています。

梅とリンゴの 産地化をめざして

講習



梅を剪定する足立普及員



東京東白川クラブ、中京村人会、東白川花の木会、村の皆さん揃って記念撮影

それぞれの村人会ごとに観光が予定されていたため、宿を出る前に、みんな揃って記念撮影。参加した皆さんは、別れを惜しみながらも別々の岐路につき、伊豆の早春を満喫しました。

今回の旅行は、各村人会ごとに出発し、一行を乗せたバスは夕方目的地に到着。宿では、すぐさま予定されていた懇親会が行われ、参加した六十四人の同級生や幼なじみたちは、久しぶりに会った感触に浸りながら、懐かしい故郷の思い出話などに花を咲かせました。翌日は、それぞれの村人会ごとに観光が予定されていたため、宿を出る前に、みんな揃って記念撮影。参加した皆さんは、別れを惜しみながらも別々の岐路につき、伊豆の早春を満喫しました。

伊豆で故郷を 懐かしむ

親睦

故郷を離れ、都会で生活しながらも村の応援団としてエールを送り続けてくれている村人会。村では例年八月に村人会の皆さんを迎えて里帰り交流会を開催していましたが、今回は趣向を凝らし、「枕を並べて旧交を暖めよう」と二月七日、八日の一泊二日で静岡県修善寺温泉への合同旅行へ出掛けました。

話題集まれ!



景気対策を熱く語る福岡政行氏

講演 景気回復の 施策を語る

バブル崩壊後、政治家や官僚の不祥時、金融機関の破綻など景気を揺るがす様々な問題が取り沙汰され、「この先いったい日本はどうなるの?」と国民みんなが不安を抱いているのではないだろうか。また、こうした経済不況は木材関連産業が基幹産業のこの村でも大きな問題で、二月二十八日に恒例となった山村活性化講演会がはなのき会館で行われ、講師にはテレビで政治・経済の解説者としておなじみの白鷗大学教授福岡政行氏を招いて「どう動く、これからの日本の政治と経済」と題した講演が行われました。

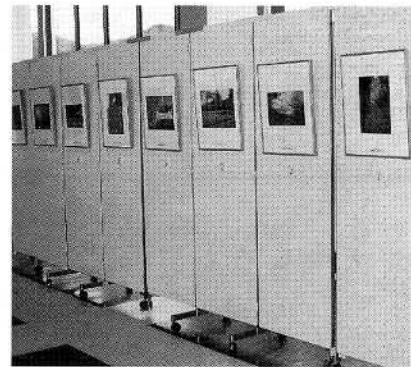
この講演会は、村民の皆さんに政治と経済の関わりを知っていただくために開催したもので商工会、森林組合、農協の関係者など約百八十人が訪れ、アメリカの動向や公定歩合の引き上げ、減税など景気回復のための施策を語る福岡先生の話真剣な表情で聞き入っていました。福岡先生は最後に子どもたちの教育問題を取り上げ「親が手を掛けすぎる」と指摘されました。



“天ちん” こと天野鎮雄さんの記念講演

十景に選ばれました。また、この日、ラジオなどでおなじみの天野鎮雄氏の「旅は道づれ写真はびんぼけ」と題した記念講演も行われました。

発掘 埋もれた資源を 再開発!!



展示された入選作品

中濃圏域二十五市町村が合同で、地域の埋もれた資源の再発見をテーマに、昨年六月から広く作品を募集していた日本まん真ん中日本公園村「こころに残る五十景」の公開フォトコンテストが三月一日に関市文化会館で行われ、寄せられた三百八十六点の作品の中から、入選した五十作品の展示や発表が行われました。

このコンテストには、村からも四点の作品を応募、その内、安江康助さん(上親田)の左広川の滝を写した作品と鈴木美幸さん(愛知県)の白川に咲く岩つつじを写した作品の二点が五十景に選ばれました。

福祉 障害者への理解を 求める安江さん



子どもたちに障害者の生活などを説明する安江一也さん

「お話を聞く会」では、安江さんが全校児童を前にスライドを活用して施設などの障害者用の駐車場やトイレなどを説明。児童たちの質問にも優しく答え「障害者を偏見の目で見ないで」。しかし困った人がいたら助けてあげてほしい」と心の理解を求めました。安江さんは今後もうした活動を続け「大勢の皆さんと交流を深めたい」と話してくれました。

安江さんは十年前に交通事故で頸椎損傷。以来、車イスの生活を余儀なくされましたが、長年のリハビリに耐え、今では自分で車を運転して方々へ出かけたり、車イスでのバスケットボールにも熱中されるまでになりました。

「お話を聞く会」では、安江さんが全校児童を前にスライドを活用して施設などの障害者用の駐車場やトイレなどを説明。児童たちの質問にも優しく答え「障害者を偏見の目で見ないで」。しかし困った人がいたら助けてあげてほしい」と心の理解を求めました。安江さんは今後もうした活動を続け「大勢の皆さんと交流を深めたい」と話してくれました。

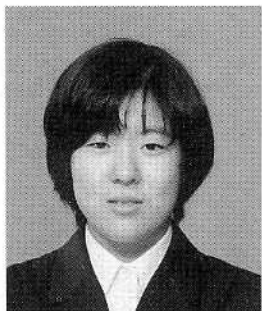
からだにハンデを抱える障害者の人たちには、日本もまだまだ福祉国家とはいえないようです。それは、施設の整備はもちろんのこと、健康な人たちが障害者に対して理解をしていないことです。三月三日に東白川小学校では「障害者の生活、関わり方を知ろう」と福祉委員の児童たちが、曲坂の安江一也さんを迎えて「お話を聞く会」を開催しました。

なごやが村の『人情報』

お便り

巣立ちの時に

越原曲坂 澤 愛
仲 澤 愛

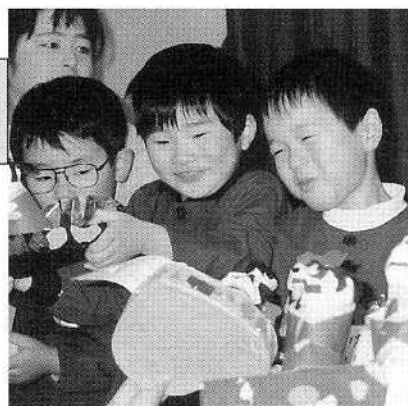


東白川中学校3年生

仲澤 愛さん

三三年間にしたいと
思っています。
そして、小学校、
中学校での思い出を
大切に、いつまでも
忘れないように心に
残しておきたいと思
います。

私はこの春から高校生です。それと同時に小学校
中学校で一緒に学んできた仲間と離れて、自分の道
を歩むことになりました。
でも今はまだ実感がなく、九年間も一緒だった仲
間が「本当に離れていくのだろうか？」と思ったり
します。
私は今まで同級生のみんなと過ごす生活が「当た
り前」のように感じていました。それが違うと思う
とすごく悲しくなります。しかし、それは避けては
通れない道で、どうしようもないことです。
それぞれが自分の夢に向かって巣立っていくのを
止めるわけにはいきません。だから私も精一杯頑張
ろうと思います。そのためにもこの素晴らしい学校
で学んだことを高校生活にも生かしていきたいです
し、中学のとき以上に自分の力を発揮し、悔いの無
い三年間にしたいと思
っています。

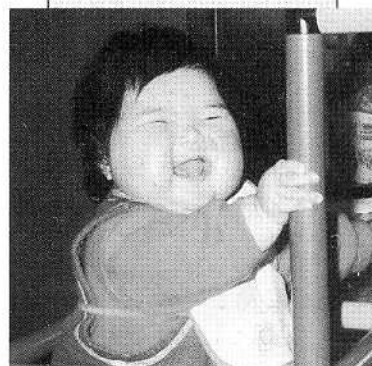


神土保育園ひなまつり会より

わが家のスター



このコーナーの子ど
もたちみな同い年。
10年後、20年後「広
報」をみれば「あ
のあのあの子の顔が...



▲ 安江つぐみちゃん
(義人さん・由紀さん
=黒淵)

仲間をたずねて



日本の伝統文化には様々な
のがあります。中でも茶道は
代表的な文化のひとつ。今回は
茶道クラブを訪ね、礼儀作法を
伝授していただきました。
このクラブの面倒をみている
のは安江峰子さん(平)、神戸
啓子さん(平)、神戸猶子さん
(平)の三人。皆さんは白川町
の同じ師匠のもとで学び、師範
の資格を取得。そして、峰子さ
んと啓子さんは毎週土曜日にめ
いめいの家で会員の皆さんに指
導をしています。
茶道は来客をもてなすときの
作法。おいしいお茶と四季折々
の演出や心遣いでお客さんの気
分を快くさせます。



心静かに抹茶を点てる神戸啓子さん(平)

そのため奥が深く「茶道に卒
業はない」と三人は毎週火曜日
に啓子さん宅で練習を重ねてい
ます。釜の湯が沸騰する音しか
耳に入らない空気の中で「これ
が落ち着く」と猶子さん。「茶
道は日常茶飯事の凝縮」と啓子
さん。ベテランでも邪念が入る
と間違えることも。皆さん真剣
な面持ちで点てていました。



みんな仲間だ!

消息

2月1日～2月28日

(敬称略)

●誕生おめでとうございます

(下野) 安江 修治 } さくら
ほずみ } 咲良

●おくやみ申し上げます

安江みち子 83歳 (黒 淵)
島倉 安男 58歳 (大明神)

職場から

森の交流大使

「森の交流大使」として昨年3月にやってきた田内公味子さんと栗田妹由子さん。お二人の多忙の一年を振り返ると、クラフトを担当する田内さんは、村の皆さんを相手に陶芸などを指導。そのため、日夜、研究開発の毎日。「新しいものを作り出す楽しみと責任の重さ感じた」という田内さんはこの一年間を反省に納得いくものを作り出したいと希望に燃えていました。

一方、「味彩」でパンづくり体験を担当する栗田さんは「新たな経験や出会いがあった」と充実した1年に満足そう。「これからも多くのお客様に来てもらえるよう頑張りたい」と試作研究に余念がありませんでした。



田内公味子さん(左)と栗田妹由子さん

今回は昨年四月に東白川小学校に赴任され、平の河鹿荘にお住まいの左合悟さんご一家を訪ねました。

左合さんご一家は、ご主人の悟さん、奥さんの万寿美さん、そして神戸保育園に通う葉ちゃん、の三人家族。岐阜市出身のご家族、この村へ来て最初



左合悟さん・葉ちゃん・万寿美さん

んと出掛けて満喫するそうです。この家族は「ふれあい」を大切にしています。手段はご主人が様々な会場で特技の手工品を披露すること。音楽の教師を務める奥さんのピアノなどをBGMに、プロ級の腕前を見せてくれます。「声をかけてくれればどこへでも」と話してくれました。

驚いたのは「有線放送のお知らせやラジオ体操、迷い犬のこなど情報量の多さにびっくり」と奥さん。また、この村のお気に入り「白川茶屋」の五平もちや「味彩」のカレーバイキングなどなど。家族やいろんな皆さん

ホットアングル



校では、一年生たちが神戸越原、五加の年長組の園児たちと交流会を行いました。一年生たちはお兄さんやお姉さんの気分で、園児た

もうすぐ四月出会いと別れの季節です。保育園でも年長組の子どもたちは小さな胸の中に不安と希望を抱きながら、おゆうぎもお昼寝も無い小学校へ進んでいきます。そんな不安を少しでも取り除こうと二月十九日に東白川小学



1年生がつくったおみくじ屋さんと運を占う園児

ちの手を引きながら校内を案内。そのあと教室で「おもちゃまつり」を開催し、手作りの魚釣り屋さんや輪投げ屋さんなど七つの店を開いて歓迎しました。園児たちはお兄さんたちの温かい心に触れ、小学校へ来るのが楽しみになったかな?



梅の花も開花し、
村にも春がやってきました。

知ってほしい『生活情報』

社協から

古切手の使い道

広報や社協だよりの寄付欄で紹介する古切手。「いったい何に使うのだろう」と思っている方もあるのでは。古切手や使用済みのテレカは、社協を通じて福祉団体へまとめて送付され、福祉器具の購入や地域福祉国際ボランティアなどに役立てていきます。

収集ボランティアにぜひご協力を
お願いします。

課題を追う

もう少し幅を広げて 森林の価値を見直そう

Ⅱ 森林交付税について Ⅱ

平成四年十一月、和歌山県本宮町ほか三十五町村が中心になって「森林交付税創設」の運動が始められました。いまではそれが七百を超える町村が参加する大きな輪になりました。もちろん東白川村も参加しています。

森林は水を蓄え、空気を浄化し、人間に潤いを与えるなど、地球環境のために無くてはならないものです。これを森林の公益的機能といいます。わが国が美しい自然と豊かな水に恵まれているのは豊かな森林があるおかげです。したがって、その森林の恵みは、森林のある山村だけのものではなく、その山村とはくらべものにならない多くの人口を擁する都市を含めて、日本全体のものであり、さらには近年、地球規模で環境を考えると、常識に沿えば、「森林の公益的機能」は全世界に対して果たされているものといえます。

木を育てることを「撫育」といいますが、山村の人々は文字通り撫でるようにじっくり森林を育ててきました。そしてそこから、いくばくかの収入を得ながら生活の糧とし、その収益をまた森林のために使って、タイムスパン五十年、六十年というサイクルを親子代々引き継いで「撫育」してきたのです。

森林の公益的機能は、特に近年になって注目されてきました。その機能は山村の永い営みのなかで培われてきたのです。その営みを支えてきた一つの要素はまぎれもなく森林の経済性でしたが、現在の木材価格の低迷のごとく、その支えが崩れつつある中で、「公益的機能」を正當に評価して森林を守る費用を山村に投下することが、すくなくとも日本の環境のために必要ではないでしょうか。



▼ 冷凍室にピッタリの 牛乳パック ▲

油断しているとすぐにごちゃごちゃになってしまふ冷凍室。すっきり整理したいときには、冷凍室の奥行にピッタリの牛乳パックを再利用してみたいかがでしょうか。

まず、パック側面の一片を切り取り、長方形になるよう注ぎ口はホチキスでとめます。

冷凍する食品はビニール袋に入れてからパックに詰めますが、中身よっては型がくずれないように、パックの回りを輪ゴムや紙を巻くと安定します。

中身を分かりやすくするため、更に冷凍保存用のビニール袋に中身を書いたラベルを貼り、見えるように庫内に入れれば万全です。切り取った一片はお皿の汚れ取りなどに利用してください。

▼ 住宅取得資金 贈与の特例 ▲

子や孫が父母や祖父母から住宅取得資金の贈与を受けたときは、一定の要件に当てはまれば、三百万円までの部分については贈与税はかかりません。また、一千万円までの部分についても税額が軽減されます。

これが住宅取得資金贈与の特例です。

もらった財産の価額から基礎控除(六十万円)を差し引き、その残額に税率をかけるのが通常。財産の価額を五分の一にして贈与税を求め、その贈与税額を五倍にして納税額を算出します。

例えば五百万円の贈与を受けた場合、通常の贈与税額は八十四万五千円ですが、特例の場合は二十万円になります。なお、特例を受けるには税額がゼロでも申告が必要です。



行政の窓口

ありがとう
ございました

御寄付 (敬称略)

【社会福祉協議会へ】

- 現金10万円＝早瀬久子 (上親田)
- 現金10万円＝安江正衛 (黒淵)
- 現金20万円＝村雲勇市 (曲坂)
- 現金20万円＝熊澤良介 (日向)
- 現金10万円＝熊澤範 (千葉県) 熊澤健治 (小牧市)
- 現金5万円＝今井嗣尚 (平)
- 古切手＝今井千代ゑ (平)
- 古切手＝匿名
- 古切手・使用済テレホンカード＝安江さきゑ (平)
- タオル＝安江峰子 (平)

清拭用布＝樋口清市 (中谷)

【社会福祉施設整備指定】

- 現金30万円＝熊崎道一 (平)
- 現金3万円＝安江ひさの (平)
- 現金5万円＝安江克巳 (陰地)

【教育委員会指定】

- 現金7万円＝田口光洋 (中谷)

【東白川中学校へ】

- 読売写真ニュース1年分
- ＝東白川産業(株)・(有)新田建設

【東白川小学校へ】

- 図書券＝若井千尋 (岐阜市)
- くじゃくケース助成1万円＝安江喜好 (黒淵)

【神土保育園へ】

- 饅頭80個＝中村君子 (平)
- キャスター1台・ものほし台1台＝平成9年度卒園記念

【越原保育園へ】

- ショートケーキ＝村雲さと (陰地)
- 三輪車2台＝平成9年度保護者会退会者
- 三輪車2台＝平成9年度卒園児記念
- ブラックライト1機＝伊藤かつえ (福岡町)

【五加保育園】

- 自転車1台・ホッピング1台＝平成9年度
- 卒園記念・平成9年度保護者会一同

※「保健婦だより」は今回休ませていただきます。

福祉医療制度を

「存じですか」

福祉医療制度とは、乳児、重度心身障害者母子家庭や七十歳から老人保健の適用を前にした六十九歳老人の医療費の一部を村が助成するものです。

健康保険や助成金によって個人の負担額は無料、もしくはわずかな金額で診療や治療が受けられます。

対象者の負担割合や助成期間は次のとおりです。

六十九歳老人

助成対象者／満六十九歳の老人
個人負担割合／保険適用内では総医療費の一割
(ただし、入院時の食事療養費に係る標準負担額及び外来の薬剤一部負担金を除く)
助成期間／誕生月の翌月の初日から七十歳の

誕生月末日まで(ただし、一日生まれは誕生月の前月の末日)

重度心身障害者(児)

助成対象者／心身障害者手帳一～三級所持者
同四級で戦傷病者手帳所持者、療育手帳所持者(IQ五十以下)、障害年金受給者
個人負担割合／保険適用内は無料

助成期間／認定された月の初日から最初の九月三十日までが助成期間です。満期になりましたら、更新手続きをしてください。(ただし、六十五歳の老人保健の適用が受けることができる者となる前日まで)

乳幼児

助成対象者／三歳未満児
個人負担割合／保険適用内は無料
助成期間／出生日から三歳の誕生月の末日まで(ただし、他町村から転入された方は認定された月の初日からになります)

母子家庭等

助成対象者／十八歳未満児を扶養している配偶者のいない母とその子ども、もしくは父母のいない十八歳未満児

個人負担割合／保険適用内は無料
助成期間／認定された月の初日から最初の九月三十日までが助成期間です。満期になりましたら、更新手続きをしてください。(ただし、満十八歳になった日から最初の三月三十一日まで)

重度心身障害老人

助成対象者／心身障害者手帳一～三級所持者
同四級で戦傷病者手帳所持者、療育手帳所持者(IQ五十以下)、障害者年金受給者のいずれかの該当者で、老人保健の適用者
個人負担割合／保健適用内は無料
助成期間／認定された月の初日から

くわしくは／役場住民係 有線二一六二

輝く田舎の『文化情報』



風で雪が舞う捨難山

ひな祭りが終わりました。どの家庭でもひな人形は押し入れの片隅あたりで、一年間の眠りに着きました。家庭によっては、もう何年も眠ったままの人形もあることでしょう。

その中に昔の「土雛」がたくさんあると思います。素焼き風の焼き物に色鮮やかな泥絵具で彩色した素朴な人形、今は十二ひとえを着せた平安調のものが主流ですが、それに比べるとその素朴さがいっそう際立ちます。

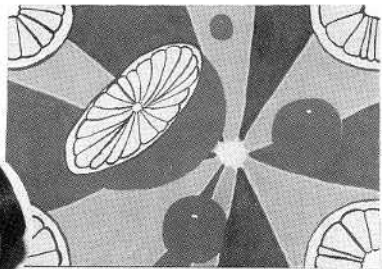
「土雛」は全国各地にあったようですが、陶器の生産が盛んな東海地方が本場でした。しかし今では買い求める人も少なく、したがって作る人もほとんど無いのが現状とか。そんなことから逆に民俗文化として、また何とも言えない親しみのある雰囲気がある静かなブームとなり、評価が高まっています。

時代のヒーロー、ヒロインや流行がそのまま人形になっているので、その点でも貴重な民俗資料として大切に保存したいものです。

旬しゅんの話

土雛人形

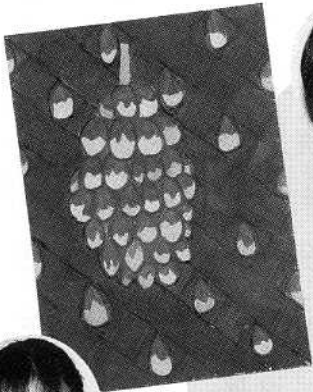
私の作品



▲平面構成「グレープフルーツ」
高木佑子さん（日向）
東白川中学校1年生



東白川小学校6年生
桂川亜希さん（日向）
版画「自画像」



▲平面構成「巨峰」
新田記子さん（平）
東白川中学校1年生



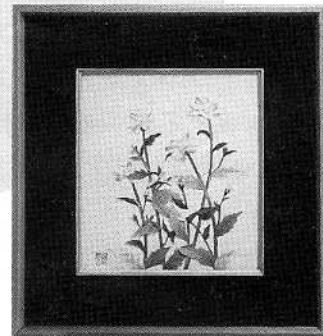
▲「おひなさま」
越原保育園年中組7人



▲紙版画「おやすみマキ」
大坪里奈さん（下親田）
東白川小学校3年生



▲陶芸「茶碗」
樋口喜代美さん（西洞）
高齢者生きがい事業



貼り絵クラブ
熊澤梅子さん（日向）
貼り絵「都わすれ」

心のオアシス

東白川村百科

農地

明治7年に行われた「地租改正」で一筆ごとに面積が正しく調査され、はじめて村の農地面積が明らかになりましたが、このとき田が223町9反、(約224ヘクタール)畑117町6反(117.6ヘクタール)となっています。

田はすでにこの時、開発の限度に達したもようで、あとは減少傾向にあります。とくに昭和46年から始まった米の生産調整の影響で畑に転換されたり、山沿いの不便な所は植林されたりして、平成9年では155ヘクタールまでになりました。

一方畑は、その時々有利な換金作物を選んで作付けできることから増加し、中でも明治から大正にかけての養蚕業の好景気を反映して、一時は桑園面積が170ヘクタールを越えました。

昭和35年からの白川茶の振興で、こんどは茶園が120ヘクタールに達しました。このように歴史を写しながら変動する農地面積。今は水田155・普通畑74・茶園120・桑園28・合計377(ヘクタール)となっています。

本

「三世 桂三木助」
山本 昌代 著

三木助かい、先代の。

いい噺家だったよ。いなせで江戸前のねー。三木助についちゃあ、話せないことの方が多いよ、特に若い頃は。敵も多い人だったけど腰が低くて憎めない感じだった。小兵だが男前でね…「芝浜」の名人芸で知られた噺家「三世桂三木助」の生涯。

三世
桂三木助
山本昌代

短歌

水張りし皿に浮べて花オクラ食することをしばし躊躇う 今井 米子

霜枯れの架線に怯ゆる老鷹に口笛鳴らし安否探りぬ 安江 守平

サッカーのテレビを力入れて観るひととき楽し老を忘れて 三戸 きり

越冬をさせてはならじ巻き始めしキャベツの芯に潜む青虫 安江 澄

児等も食はず木に鈴なりの甘柿は囊にうたれ色褪せてゆく 菊田 清美

屈折をする度車窓の右ひだり形をかえて富士はせまりぬ 田口かずみ

喜寿すぎて吾ふと思ふ目の悪くありし姑の孤独なりしを 平安江 節子

のぼりきし山端の月に手を合せ孫は喜ぶ師走の満月 安江 龍玉

土掬ふ先端朝日に光りつゝシヨベルカーは今始動の時ぞ 今井 かな

冬の日の暮るゝに早き山畑に一ト日過ごせしが夏の半日 安江嘉久一

寒月の明るき家路を急ぎゆくわが影ぼうし長く短かく 早瀬 久子

雪雲の低き夕べは鍋物の匂い漏れくる家々の窓 安江とくよ

冬の陽の窓辺におけるシクラメンわがひとり見る花のやさしさ 小林 道子

太陽と話したくする散歩見識の人と会えばご気嫌 伊藤 重雄

柔かく炊きし大根好む夫に今宵も炊けり薄味にして 伊藤 美枝

皆様の作品をお寄せください！ご投稿は偶数月の二十日までに
越原安江嘉久一宛にお出し下さい。

おしらせ

連絡
募集
行事

事業主の皆さんへ

「労働保険料の申告と納付はお早めに」

労働保険の平成九年度確定保険料と平成十年度概算保険料の申告・納付手続きはお済みになりましたか。

申告・納付期限は五月二十日です。期限までに正しく終えてください。

申告書の書き方、内容など不明な点がございましたら、岐阜労働基準局までお尋ねください。

☎〇五八一二四五八一〇

美濃白川絵ハガキ

フォトコンテスト

作品募集

絵ハガキにして送りたいくなるような作品を募集します。

テーマ／白川の四季
作品／・カラープリント四つ切り（ワイド四つ切りも可）・台紙なし・未発表のものに限る・規格外や日付プリントされるものは不可

応募方法／所定の応募票を添付して提出
応募締切／春・夏の部 平成十年八月末日
入賞者には／
特選：賞状と賞金三万円
準特選：賞状と賞金二万円
特別賞：賞状と賞金一万円
応募先・問い合わせ／白川町役場企画課 ☎〇五七四七一 二一三一一

ご存じですか？

簡易裁判所の小額訴訟

「売掛代金、飲食代金が払ってもらえない」「貸したお金が返してもらえない」とお困りの方もいるのではないのでしょうか。

速やかに解決できる小額訴訟をご存じですか。小額訴訟は、三十万円以下の金銭トラブルを解決するための裁判です。小額訴訟の特徴

①三十万円以下の金銭トラブルに限ります。

②何度も裁判所へ足を運ぶ必要がなく、原則として一回の審理で双方の言い分や証拠を調査の上、その場で判決を言い渡します。

③証拠書類や証人は、その場ですぐ調べることができ、原告の請求を認める場合でも、分割払、支払猶予、遅延損害金免除の判決を言い渡すことができます。

⑤判決に対して不服がある場合、異議を申し立てることができません。

くわしくは／岐阜家庭裁判所事務局総務課 ☎〇五八一 二六二一五一二一

六十歳以上定年制が義務化されます

平成十年四月一日から、事業主は定年の定めをする場合に六十歳を下回ることをできなくなります。すでに定年を定めている事業主についても同様です。もし、事業主が借置を講じない場合はその定年は無効であり、定年を理由に労働者を退職させることはできません。

七宗写真コンテスト

作品募集

今まで気づけなかった七宗をあなたの自由な発想で見つけてください。

テーマ／七宗みつけた！
作品／・カラーまたは白黒・四つ切り（ワイド含む）

・規定外のサイズや台紙、パネルに貼ったものは不可
・未発表のものに限る
応募方法／所定の応募用紙に明記の上、添付
応募締切／平成十年九月三十日必着
発表／平成十年十一月一日入賞者には／

金 賞：五万円、賞状、楯
銀 賞：三万円、賞状、楯
銅 賞：二万円、賞状、楯
特別賞：記念品、賞状、楯
入 選：記念品、賞状
佳 作：記念品、賞状
応募先・問い合わせ／七宗町役場企画課「七宗写真コンテスト」係 ☎〇五七四一四八一 一一一



こぼれ話
今回の冬季オリンピックは、久しぶりに日本国中に感動を与えてくれた。特にジャンプ団体競技で金メダルを決めた原田選手の涙には、思わずらい泣きをした。▼彼は過去に失敗もあるだけに、そのプレッシャーは他人には理解できないほど大きかったに違いない。本当に心から出た涙であり、笑顔は最近のテレビ画面になかった光景だけに感動もひとしおだった。▼ともすると今の時代は、自分自身のために競技するという風潮が強い。そんな中で手に汗して、観客は無論、テレビの前で「日本」、「日本」と応援することは、昨年のサッカーのワールドカップ予選以来だった。人心が一体化する心地よさを味わった。▼また、メインポールに揚がる日本の国旗と流れる国歌は、子どもたちにどう写っただろう。少なくとも日ごろとは違った感慨で受け止めたのではないかと思う。入賞しなかったががんばった選手の姿、国際交流の光景、ボランティア、感動を伴う教育の大切さを心から感じた。